

MaxiSys DS900



商標

Autel®、MaxiSys®、MaxiDAS®、MaxiPRO®、MaxiRecorder®、MaxiCOM®、MaxiTPMS®および MaxiCheck®は、中国、米国およびその他の国で登録された Autel Intelligent Technology Corp., Ltd. の商標です。その他のすべてのマークは、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

著作権情報

Autelの事前の書面による許可がない限り、このマニュアルのいかなる部分も複製したり、検索システムに保存したり、電子的、機械的、コピー、録音などの形式または手段で送信したりすることはできません。

保証の否認および責任の制限

このマニュアルに記載されているすべての情報、仕様、および図は、印刷時点で入手可能な最新情報に基づいています。

Autelは、予告なしにいつでも変更する権利を留保します。このマニュアルの情報は正確性について慎重にチェックされていますが、製品の仕様、機能、イラストなど、内容の完全性および正確性については一切保証されません。

Autelは、本製品の使用による直接的、特別、付随的、間接的な損害、または経済的結果的損害（利益の損失を含む）に対して責任を負いません。

重要

この装置を操作または保守する前に、このマニュアルをよく読み、安全上の警告と注意事項に特に注意してください。

サービスとサポートについて



pro.autel.com

www.autel.com



1-855-288-3588(北米)
+86(0755)8614-7777(中国)



[サポート](#)

他のすべての市場における技術サポートについては、このページの「[テクニカル サポート](#)」を参照してください。

安全情報

あなた自身と他の人の安全を確保し、デバイスやデバイスが使用される車両への損傷を防ぐために、このマニュアル全体に記載されている安全上の注意事項を、デバイス进行操作する人、またはデバイスに接触するすべての人が読み、理解することが重要です。デバイス。

車の整備には、作業を行う人のスキルだけでなく、さまざまな手順、技術、工具、部品が必要です。この装置でテストできる製品のテスト用途やバリエーションは膨大であるため、すべての状況をカバーするアドバイスや安全メッセージを予測したり提供したりすることはできません。テスト対象のシステムについての知識を持つのは自動車技術者の責任です。適切なサービス方法とテスト手順を使用することが重要です。ユーザーの安全、作業エリア内の他の人の安全、使用されているデバイス、またはテスト対象の車両を危険にさらさない、適切かつ許容可能な方法でテストを実行することが不可欠です。

デバイスを使用する前に、テスト対象の車両または機器のメーカーが提供する安全上のメッセージおよび該当するテスト手順を必ず参照し、に従ってください。

デバイスは、このマニュアルに記載されている方法でのみ使用してください。このマニュアルに記載されているすべての安全上のメッセージと指示を必ず読み、理解し、従ってください。

安全に関するメッセージ

人身傷害や機器の損傷を防ぐために、安全に関するメッセージが表示されます。すべての安全メッセージは、危険レベルを示す注意喚起語によって導入されます。

危険

回避しないと、オペレーターまたは近くにいる人が死亡または重傷を負うことになる、差し迫った危険な状況を示します。

警告

回避しない場合、オペレーターまたは近くにいる人が死亡または重傷を負う可能性がある潜在的に危険な状況を示します。

安全についての案内

ここに記載されている安全に関するメッセージは、発行時点で Autel が認識している状況を対象としています。Autel は、起こり得るすべての危険について知り、評価し、アドバイスすることはできません。いかなる状況やサービス手順が発生しても、個人の安全が危険にさらされないことを確認する必要があります。

危険

エンジンが作動しているときは、サービスエリアの換気を良くするか、エンジンの排気システムに建物の排気除去システムを取り付けてください。エンジンは一酸化炭素を発生します。一酸化炭素は無臭の有毒ガスで、反応時間を遅くし、重大な人身傷害や死亡につながる可能性があります。

安全上の警告

常に安全な環境で自動車試験を実施してください。

ANSI 規格に適合する安全保護具を着用してください。

衣服、髪、手、道具、試験装置などを、すべての可動部品または高温のエンジン部品に近づけないでください。

排気ガスは有毒なので、換気の良い作業エリアで車両を操作してください。

エンジンを始動する前に、必ずパーキングブレーキをかけ、前輪を車両ブロックで止め、エンジン始動時に車両が前進しないように、ギアレバーをニュートラル（マニュアルトランスミッション）またはパーキング（オートマチックトランスミッション）にします。

イグニッションコイル、配電キャップ、イグニッションワイヤーやスパークプラグ周辺での作業には細心の注意を払う必要があります。これらのコンポーネントは、エンジンの稼働中に危険な電圧を生成します。

ガソリン、化学薬品、および電気の火災に適した消火器を近くに置いてください。

イグニッションがオンになっているとき、またはエンジンが稼働しているときは、テスト機器を接続したり切断したりしないでください。

テスト機器を乾燥した清潔な状態に保ち、油、水、またはグリースを含まないようにします。必要に応じて、清潔な布に中性洗剤を使用して、機器の外側を清掃します。

車両を運転すると同時にテスト機器を操作しないでください。事故を引き起こすことがあります。

サービス対象の車両のサービスマニュアルを参照し、すべての診断手順と注意事項に従ってください。従わない場合、人身傷害または試験装置の損傷につながる可能性があります。

テスト機器の損傷や誤ったデータの生成を防ぐため、車両のバッテリーが完全に充電され、車両の DLC への接続が確実であることを確認してください。

テスト機器を車両のディストリビューターに置かないでください。強い電磁干渉は機器を損傷する可能性があります。

目次

1	このマニュアルの使用方法	1
1.1	規約.....	1
1.1.1	太字テキスト.....	1
1.1.2	注意事項と重要なメッセージ.....	1
1.1.3	ハイパーリンク.....	1
1.1.4	☒.....	2
1.1.5	手順.....	2
2	概要	3
2.1	MAXIDAS DS900タブレット.....	3
2.1.1	製品の概要.....	3
2.1.2	電源.....	5
2.1.3	技術仕様.....	5
2.2	その他の付属品.....	6
3	はじめに	7
3.1	電源投入.....	7
3.1.1	アプリケーションボタン.....	8
3.1.2	ロケーターおよびナビゲーション ボタン.....	9
3.1.3	システムステータスアイコン.....	10
3.2	パワーダウン.....	10
3.2.1	再起動システム.....	10
4	診断	11
4.1	はじめに.....	11
4.1.1	車両メニューレイアウト.....	11
4.2	車両識別.....	13

4.2.1自動検出	13
4.2.2手動入力	14
4.2.3VIN/ライセンスのスキャン	14
4.2.4マニュアル車両セクション	15
4.2.5OBDIIダイレクトエントリー	15
4.3診断画面のレイアウト	16
4.3.2画面メッセージ	18
4.3.3選択を行う	19
4.4診断機能	19
4.4.2ECU情報	22
4.4.3トラブルコード	23
4.4.4 ライブデータ	24
4.4.5アクティブテスト	31
4.4.6特別な機能	32
4.5一般的なOBDII操作	32
4.5.1 一般的な手順	32
4.5.2 機能の説明	33
4.6診断レポート	35
4.6.1 プリスキャン機能とポストスキャン機能	35
4.6.2 診断レポートの保存、表示、共有	36
4.7診断の終了	40
5サービス	42
5.1オイルリセットサービス	42
5.2電子パーキングブレーキ(EPB)サービス	42
5.2.1EPBの安全性	43
5.3バッテリー管理システム(BMS)サービス	43

5.4ステアリング角センサー(SAS)サービス.....	44
5.5ディーゼル粒子フィルター (DPF)サービス.....	44
5.6タイヤ空気圧監視システム (TPMS)サービス.....	45
5.7イモビライザー (IMMO)サービス.....	45
6 データ マネージャー.....	47
6.1車両履歴.....	48
6.1.1 過去のテスト記録.....	49
6.2ワークショップ情報.....	50
6.3顧客.....	51
6.4画像.....	52
6.5クラウドレポート.....	53
6.6PDFファイル.....	53
6.7データの確認.....	54
6.8データロギング.....	54
6.9アプリのアンインストール.....	54
7 設定.....	55
7.1 ユニット.....	55
7.2言語.....	56
7.3印刷設定.....	56
7.3.1 印刷操作.....	56
7.4レポート設定.....	57
7.5プッシュ通知.....	58
7.6ファームウェアのアップグレード.....	58
7.7自動アップデート.....	59
7.8車両リスト.....	60
7.9システム設定.....	60

7.10概要.....	60
8アップデート	61
9リモートデスクトップ	62
10サポート	64
10.1サポート画面レイアウト.....	64
10.2私のアカウント.....	64
10.3 データロギング.....	65
10.4 トレーニング.....	65
10.5よくある質問	65
11クイックリンク.....	66
12マキシビューア.....	67
13マキシビデオ.....	70
14オーテルユーザーセンター	71
15メンテナンスとサービス.....	73
15.1 メンテナンス手順.....	73
15.2 トラブルシューティングのチェックリスト.....	73
15.3バッテリーの使用について.....	74
15.4 サービス手順.....	75
15.4.1テクニカルサポート	75
15.4.2修理サービス.....	77
15.4.3その他のサービス	77
16コンプライアンス情報.....	78
17保証.....	80
17.1 1年間限定保証.....	80

1 このマニュアルの使い方

このマニュアルにはデバイスの使用方法が記載されています。

このマニュアルに示されている一部の図では、システムに含まれていないモジュールやオプションの機器について言及している場合があります。

1.1 規約

次の規則が使用されます。

1.1.1 太字テキスト

太字のテキストは、ボタンやメニュー オプションなどの選択可能な項目を強調するために使用されます。

例：

[OK]をタップします。

1.1.2 注意事項と重要なメッセージ

1.1.2.1 注意事項

ご注意は、追加の説明、ヒント、コメントなどの役立つ情報を提供します。

1.1.2.2 重要

「重要は、回避しないとタブレットまたは車両に損傷を与える可能性がある状況を示します。

1.1.3 ハイパーリンク

他の関連記事、手順、および図へのハイパーリンクまたはリンクは、電子文書で入手できます。青色の斜体テキストは選択可能なハイパーリンクを示し、青色の下線付きテキストはウェブサイトリンクまたは電子メールアドレスリンクを示します。

1.1.4図

このマニュアルで使用されているイラストはサンプルです。実際のテスト画面はテスト対象の車両ごとに異なる場合があります。メニューのタイトルと画面上の指示に従って、正しいオプションを選択してください。

1.1.5手順

矢印アイコンは手順を示します。

例：

タブレットの電源を切るには

- 1 電源/ロックボタンを長押しします。
2. 「電源を切る」をタップします。タブレットは数秒後に電源が切れます。

2概要

このマニュアルでは、デバイスの構造と操作、および診断ソリューションを提供するためにデバイスがどのように機能するかについて説明します。

2.1 MaxiDASDS900タブレット

2.1.1 製品概要

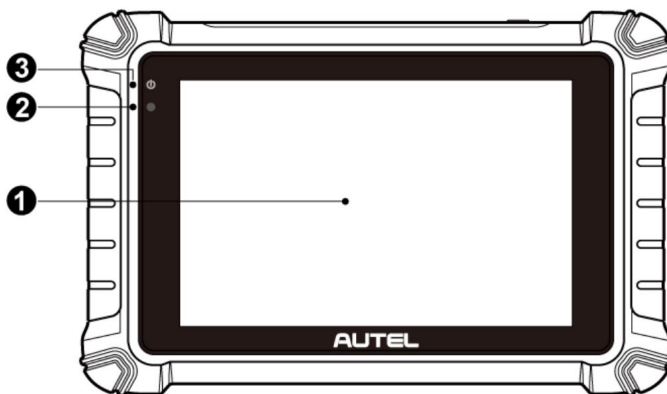


図 2-1 タブレットの正面図

1. 8.0インチLCD静電容量式タッチスクリーン
2. 周囲光センサー - 周囲の明るさを検出します。
3. 電源 LED—バッテリー レベルと充電またはシステムの状態を示します。

電源 LEDは、電力レベルと動作ステータスに応じて、緑、黄、または赤で表示されます。

A. グリーン

タブレットが充電中で、バッテリー残量が90%以上の場合、緑色に点灯します。タブレットの電源がオンで、バッテリー残量が90%以上の場合、緑色に点灯します。

B. 黄色

タブレットが充電中で、バッテリー残量が90%未満の場合は黄色に点灯します。

C.レッド

タブレットの電源がオンでバッテリー残量が15%未満の場合は赤く点灯します
またはエラーが発生しました。

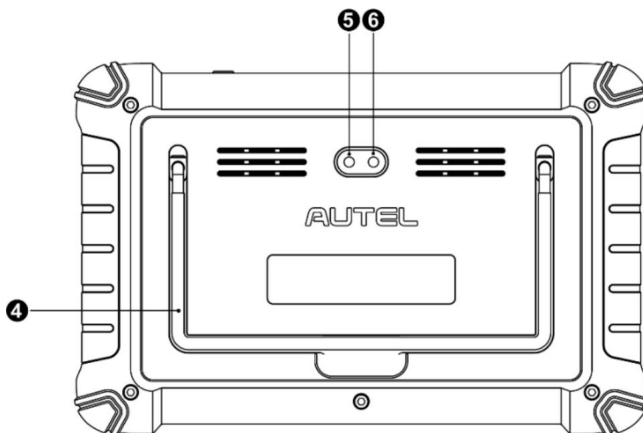


図 2-2タブレットの背面図

4. 折りたたみ式スタンド - 背面から伸びて、ハンズフリーでタブレットを見ることができます。
5. リアカメラ
6. カメラのフラッシュ

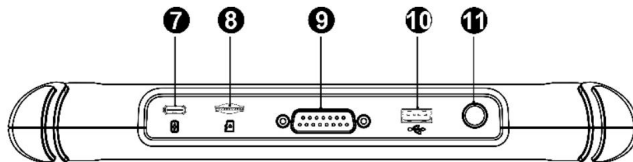


図2-3タブレット上面図

7. USB Type-C充電ポート
8. ミニSDカードスロット
9. DB15 ピン ポートメイン ケーブルを接続します。
10. USBポート
11. 電源/ロックボタン — 長押しするとデバイスの電源のオン/オフ、タップするとロックします。

2.1.2 電源

タブレットは、次のいずれかの電源から電力を受け取ることができます。

内蔵バッテリーパック

車両電源外部電源

2.1.2.1 内蔵バッテリーパック

タブレットは内蔵の充電式バッテリーから電力を供給でき、完全に充電されている場合、約 7 時間の連続使用に十分な電力を供給できます。

2.1.2.2 車両の出力

タブレットをメインケーブルで車両に接続すると、タブレットは車両から自動的に電力を受け取ります。

2.1.2.3 外部電源

タブレットには、付属の USB Type-C ケーブルと電源アダプターを使用して、壁のコンセントから電力を供給できます。外部電源は内蔵バッテリーパックも充電します。


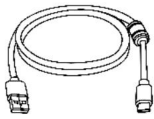
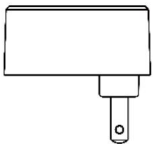
2.1.3 技術仕様

表2-1仕様

アイテム	説明
推奨用途	屋内
オペレーティングシステム	アンドロイド11
プロセッサ	クアッドコアプロセッサ
メモリ	64GB
画面	1280 x 800 解像度の 8 インチ LCD タッチスクリーン
接続性	Type-C USB USB2.0 Wi-Fi マイクロSDカード（最大64GBまで対応）周囲光センサ
センサー	—
オーディオ入力/出力	入力: 該当なし 出力 :ブザー

アイテム	説明
電源とバッテリー	3.7 V/7700 mAh リチウムポリマーバッテリー 5 V DC 電源で充電
バッテリー寿命	連続使用時間約7時間
バッテリー充電入力	5V/3A
消費電力	約600 mA (デフォルトの明るさで LCD オン、Wi-Fi がオン) @ 3.7 V
動作温度	0 ~ 50 °C (32 ~ 122 °F)
保管温度	-10 ~ 60 °C (14 ~ 140 °F)
動作湿度	5 % ~ 95 % 結露なし
寸法 (幅×高さ×奥行き)	168.9mm(6.6インチ)×259.8mm(10.2インチ)×33.6mm(1.3インチ)
正味重量	925g(2.04ポンド)
サポートされている自動車 プロトコル	ISO914-12、ISO14230-2、ISO15765、K/L Line、フラッシングコード、SAE J1850VPW、SAE-J1850PWM、ISO11898 (High speed、Middle speed、Low speed and Single wire CAN)、SAEJ2610、GM、UART、UART Echo、Byte Prot、Honda??Diag、H Protocol、TP2.0、TP1.6、ISO13400、CAN??FD

2.2 その他の付属品

	メインケーブル タブレットを車両のOBDIIポート (DLC)に接続します。
	USB Type-Cケーブル 電源アダプターと併用してタブレットに電力を供給します。
	電源アダプタ USB Type-Cケーブルを使用して、タブレットを外部 DC 電源ポートに接続して電力を供給します。

3はじめに

タブレットが十分に充電されていること、または外部電源に接続されていることを確認します (電源を参照)。

3.1 パワーアップ

タブレットの右上にある電源/ロックボタンを長押しして、ユニットの電源をオンにします。

電源 LED が緑色に点灯します。システムが起動し、ロック画面が表示されます。

ロックを解除するには、ロック アイコンを上スライドします。



図 3-1 MaxiDAS ジョブ メニュー

1. アプリケーションボタン
2. ロケータとナビゲーションボタン
3. ステータスアイコン

注記

タブレットの画面は、最初に電源を入れるとデフォルトでロックされます。システム内の情報を保護し、電力を節約するために、画面をロックすることをお勧めします。





タッチスクリーンのナビゲーションはメニュー方式で、一連の質問とオプションを通じて必要なテスト手順やデータをすばやく見つけることができます。メニュー項目の詳細な説明は、アプリケーションの章に記載されています。

3.1.1 アプリケーションボタン

ツールアプリケーションの説明は以下の表に示されています。

表 3-1アプリケーション






ボタン名		説明
	診断	ユニットの診断機能にアクセスします。「診断を参照してください。
	サービス	特殊機能メニューにアクセスします。サービスを参照してください。
	データマネージャー	詳細な車両診断およびテスト記録を含む、保存された修理工場、顧客、および車両データにアクセスします。
	セッティング	システム設定メニューと一般的なタブレットメニューにアクセスします。「設定」を参照してください。
	アップデート	システムソフトウェアアップデートメニューにアクセスします。「アップデート」を参照してください。
	リモートデスク	TeamViewer アプリケーションを使用しリモート サポートを受信するようにユニットを構成します。
	GW認証	OE ゲートウェイのロックを解除するための権限を管理します。
	サポート	AutelのオンラインサービスデータベースをMaxiDAS タブレット






ボタン名		説明
	クイックリンク	関連する Web サイトのブックマークを提供し、製品の更新、サービス、サポート、およびその他の情報にすばやくアクセスできるようにします。
	MaxiViewer	サポートされている機能や車両
	マキシビデオ	近接車両検査用のイメージャ ヘッド ケーブルに接続すると、タブレットをビデオ スコープとして動作するように設定します。「マキシビデオ」を参照してください。
	個人センター	アカウントを登録し、個人プロフィールを表示および編集し、デバイスをリンクすることができます。

3.1.2 ロケータとナビゲーションボタン

画面下部のナビゲーション ボタンの操作については、次の表で説明します。

表3-2ロケータとナビゲーションボタン

ボタン名		説明
	ロケータ	画面の場所を示します。前または次の画面を表示するには、画面を左右にスワイプします。
	戻る	前の画面に戻ります。
	アンドロイドホーム	MaxiDASメイン画面に戻ります
	アンドロイドホーム	アンドロイドシステムのホーム画面に戻ります。
	最近のアプリ	現在実行中のアプリケーションの一覧を表示します。アプリアイコンをタップして起動します。アプリを閉じるには、上にスワイプします。

ボタン名		説明
	クロム	Google Chromeブラウザを起動します。
	カメラ	カメラアイコンをタップしてカメラのビューファインダーを開きます。アイコンを長押しすると、現在の画面のスクリーンショットが撮られます。保存されたファイルは、後で確認できるようにデータ マネージャー アプリケーションに保存されます。詳細については、 データ マネージャー を参照してください。
	画面 輝度	ディスプレイの明るさを自動的に調整します。
	診断 ショートカット	診断画面に戻ります。
	サービス ショートカット	サービス画面に戻ります。

3.1.3システムステータスアイコン

タブレットは Androidオペレーティング システムで動作するため、詳細については Androidのドキュメントを参照してください。

3.2電源を切る

タブレットをシャットダウンする前に、すべての車両通信を終了する必要があります。タブレットが車両と通信しているときにシャットダウンしようとする時、警告メッセージが表示されます。タブレットが車両と通信しているときに強制的にシャットダウンすると、一部の車両で ECUの問題が発生する可能性があります。電源を切る前に、診断アプリケーションを終了してください。

タブレットの電源を切るには

- 1 電源/ロックボタンを長押しします。
- 2 「電源オフ」をタップします。タブレットは数秒後に電源がオフになります。

3.2.1システムの再起動

システムがクラッシュした場合は、電源/ロックボタンを長押しし、「再起動」をタップしてシステムを再起動します。

4 診断

診断アプリケーションは、エンジン、トランスミッション、アンチロック ブレーキ システム (ABS)、エアバッグ システム (SRS)などのさまざまな車両制御システムの電子制御ユニット (ECU)にアクセスできます。

4.1はじめに

診断アプリケーションを初めて使用する前に、メインケーブルを介してタブレットとテスト車両の間に通信リンクが確立されていることを確認してください。

4.1.1車両メニューレイアウト

タブレットが車両に正しく接続されると、プラットフォームは車両診断を開始する準備が整います。MaxiDASジョブメニューの診断アプリケーション ボタンをタップして、車両メニューにアクセスします。




図 4- 車両メニュー画面

1. 上部のツールバーボタン
2. メーカーボタン

4.1.1.1 上部のツールバーボタン

画面上部のツールバー ボタンの操作については、次の表にリストして説明します。

表4- 1上部のツールバーボタン

ボタン	名前	説明
	家	MaxiDASジョブメニューに戻ります。
	で	タップするとドロップダウン リストが表示されます。 自動 VIN検出を行うには、「自動検出」をタップします。 手動入力をタップして、VINを手動で入力します。「VIN/ライセンスをスキャン」をタップして車両のVINをスキャンするか、ライセンス番号。
	全て	車両メニューにすべての車両メーカーが表示されます。
	お気に入り	好みの自動車メーカーをお気に入りに追加します。
	歴史	保存された試験車両の記録を表示します。 車両履歴 を参照してください。
	アメリカ	米国自動車メーカーの車両を展示。
	ヨーロッパ	欧州自動車メーカーの車両を展示。
	アジア	アジアの自動車メーカーの車両を展示。
	中国	中国自動車メーカーの車両を展示。
	検索	検索フィールドをタップして仮想キーボードを表示し、車両メーカー名を入力します。
	キャンセル	タップすると検索画面を終了したり、操作をキャンセルしたりできます。

4.1.1.2 車両メーカーボタン

メーカー ボタンには、テストに使用できる車両ブランドがリストされます。タブレットがテスト車両に適切に接続されたら、メーカー ボタンを選択して診断セッションを開始します。

4.2 車両識別

MaxiDA診断システムは、5つの車両識別方法をサポートしています。

1. 自動検出
2. 手動入力
3. VINライセンスをスキャンします
4. 手動車両選択
5. OBDがイレクトエントリー

4.2.1 自動検出

MaxiDA診断システムは、最新のVINベースの自動検出機能を備えており、ワンタップで車両を識別できるため、正確な車両を迅速に特定し、利用可能なシステムで障害コードをスキャンできます。

自動検出を実行するには

1. MaxiDAアプリメニューから診断ボタンをタップします。車両メニュー表示されるはずですが。
2. 上部のツールバーの「VIDボタンをタップします。



図 4-2 自動 VIN 画面

3. [自動検出] を選択します。タブレットは車両の ECU で VIN スキャンを開始します。テスト車両が正常に識別されると、システムは車両の診断メニュー画面に誘導します。[図 4-4 診断メニュー画面を参照してください。](#)

4.2.2 手動入力

自動検出機能をサポートしていない車両の場合は、車両の VINを手動で入力できます。

手動入力を実行するには

1. MaxiDASジョブ メニューから診断アプリケーション ボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部のツールバーの「VID ボタンをタップします。
3. 手動入力を選択します。
4. 入力ボックスをタップして、正しい VINコードまたはライセンス番号を入力します。
5. 「OK」をタップします。車両が識別されて車両データベースと照合され、システムは車両診断メニュー画面に案内します。

4.2.3 VIN/ライセンスのスキャン

MaxiDAS診断タブレットは、VIN/ライセンスのスキャン機能もサポートしています。この機能を有効にすると、カメラが自動的にオンになります。カメラ システムの助けを借りて、車両の VINまたはナンバーを簡単に認識できます。

注記

スキャン ライセンスの方法は、一部の国と地域でサポートされています。ライセンス番号が利用できない場合は、手動でライセンス番号を入力してください。

VIN/ライセンスのスキャンを実行する

1. MaxiDASジョブ メニューから[診断]アプリケーション ボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部のツールバーのVIDボタンをタップして、ドロップダウン リストを開きます。
3. VIN/ライセンスのスキャンを選択します。
4. カメラが起動します。画面の右側では、上から下に、QRコード/バーコードのスキャン、VINのスキャン、ライセンス番号のスキャンの3つのオプションが利用可能です。
5. 3つのオプションのいずれかを選択し、タブレットをスキャン フレーム内にVIN、ライセンス番号、またはバーコードが収まるように配置します。スキャン結果が認識結果画面に表示されます。[OKをタップして結果を確認すると、タブレットに車両情報確認画面が表示されます。

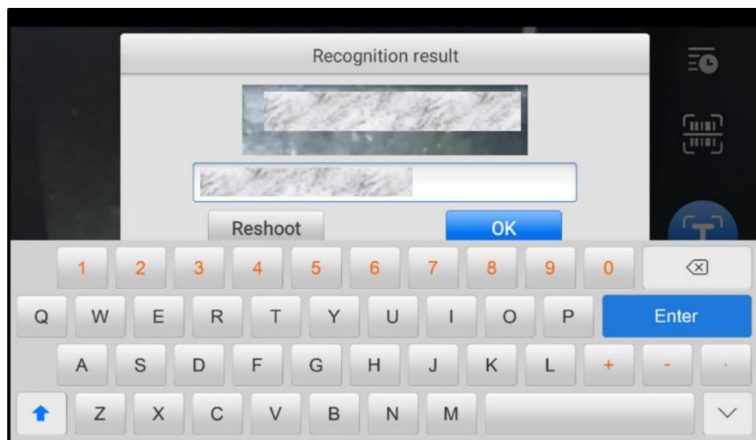



図4-3VIN/ライセンスのスキャン

6. VINまたはライセンス番号をスキャンできない場合は、手動で入力できます。画面の右下にあるボタンをタップして、 て、手動で入力します。正しいVINを入力したら、「OK」をタップして続行します。
7. 画面の指示に従って操作を完了し、車両の診断メニュー画面に進みます。

4.2.4 マニュアル車セクション

車両のVINが車両のECUから自動的に取得できない場合、または特定のVINが不明な場合は、車両を手動で選択できません。

段階的な車両選択

この車両選択モードはメニュー方式で行われます。「車両メニュー」画面で車両メーカーを選択すると、「診断タイプの選択」画面が表示され、「手動選択」ボタンをタップします。同じ画面で、ブランド、モデル、容量、エンジンタイプ、年式などの車両情報を選択します。画面の右下隅にあるESCボタンを押すと、前の画面に戻ります。必要に応じて、「リセット」ボタンをタップして車両情報を再選択します。

4.2.5 OBDII 直接エントリ

場合によっては、タブレットが車両を識別できない場合があります。これらの車両の場合、ユーザーは一般的な OBDII または EOBD 診断を実行できます。詳細については、「[一般的な OBDII 操作](#)」を参照してください。

4.3 診断画面のレイアウト

テスト車両が識別されると、診断メニューが表示されます。このセクションには、自動スキャンやコントロールユニットなど、よく使用されるさまざまな機能が含まれています。表示される利用可能な機能は、テスト車両によって異なります。

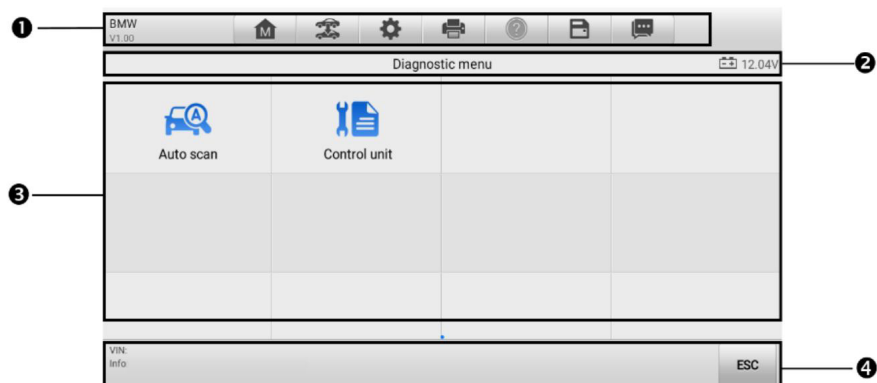


図 4-4 診断メニュー画面








診断画面には通常 4 つのセクションが含まれます。

1. 診断ツールバー
2. ステータス情報バー
3. メインセクション
4. 機能ボタン

4.3.1.1 診断ツールバー

診断ツールバーには、表示されたデータを印刷および保存するボタンやその他の操作ボタンが含まれています。次の表に、これらのボタンの操作について簡単に説明します。

表 4-2 診断ツールバーのボタン

ボタン名		説明
	ホーム	MaxiDASジョブメニューに戻ります。
	車両 スワップ	現在識別されているテスト車両の診断セッションを終了し、車両メニュー画面に戻ります。
	設定	設定画面を開きます。「設定」を参照してください。
	印刷する	表示されたデータのコピーを保存して印刷します。 追加情報については、 印刷設定を参照してください 。
	ヘルプ	さまざまな診断機能の操作に関する手順やヒントを提供します。
	保存	データ保存のオプションを提供するサブメニューを開きます。
	データ ログ記録	タップするとエラーのオプションが表示されます。特定のエラータイプを選択すると、レポート情報を入力するための送信フォームが表示されます。

Diagnosticsでデータを印刷するには

1. MaxiDASジョブメニューから[診断]アプリケーション ボタンをタップします。
2. [印刷] をタップすると、ドロップダウンメニューが表示されます。診断ツールバーの[印刷]ボタンは、診断操作全体で使用できます。
このページを印刷—現在の画面のスクリーンショットを印刷します。
すべてのデータを印刷—表示されているすべてのデータの PDF ファイルを印刷します。
3. 一時ファイルが作成され、コンピューター経由でプリンターに送信されます。
4. ファイルが正常に転送されると、確認メッセージが表示されます。

診断でデータログレポートを送信するには

1. MaxiDASジョブメニューから[診断]アプリケーション ボタンをタップします。
2. データログボタンをタップしてエラーオプションを表示します。データログ
診断ツールバーのボタンは、診断操作全体で使用できます。

3. 特定のエラーを選択すると、送信フォームが表示され、エラーを入力できます。
情報を報告します。

4. 「送信」をタップしてレポートをインターネット経由で送信します。正常に送信されると確認メッセージが表示されます。

4.3.1.2ステータス情報バー

メイン セクションの上部にあるステータス情報バーには、次の項目が表示されます。

1. メニュー タイトル - メイン セクションのメニュー見出しを表示します。
2. バッテリー アイコン - 車両のバッテリーの状態を示します。

4.3.1.3メインセクション

メイン セクションは操作の段階によって異なり、車両識別選択、メイン メニュー、テスト データ、メッセージ、手順、その他の診断情報が表示されます。

4.3.1.4機能ボタン

画面下部に表示される機能ボタンは操作によって異なります。

ボタンはメニューの移動、診断データの保存または消去、スキャンの終了などに使用できます。

その他のさまざまな制御機能を実行します。これらのボタンの使用については、対応するテスト操作の次のセクションで詳しく説明します。

4.3.2画面メッセージ

続行する前に追加の入力が必要な場合、メッセージが表示されます。画面上のメッセージには、確認、警告、エラーの 3 つの主な種類があります。

4.3.2.1確認メッセージ

確認メッセージは、元に戻すことができないアクションを実行しようとしている場合、またはアクションが開始されて続行するには確認が必要な場合に通知します。

ユーザーの応答が不要な場合、メッセージは短時間だけ表示されてから消えます。

4.3.2.2警告メッセージ

このタイプのメッセージは、選択したアクションを完了すると、元に戻せない変更やデータの損失が発生する可能性がある場合に表示されます。このメッセージの例としては、「コードの消去」メッセージがあります。

4.3.2.3 エラーメッセージ

システム エラーまたは手順エラーが発生すると、エラー メッセージが表示されます。ケーブルの切断や通信の中断などのエラーが考えられます。

4.3.3 選択を行う

診断アプリケーションは、一連のオプションを1つずつ表示するメニュー方式のプログラムです。メニューから選択すると、次のメニューが表示されます。選択することにより焦点が絞られ、目的のテストに進みます。指先を使って

メニューの選択。

4.4 診断機能

診断アプリケーションは、車両診断のためにテスト車両の電子制御システムへのデータ リンクを可能にします。アプリケーションは機能テストを実行し、トラブル コードやイベント コードなどの車両診断情報や、エンジン、トランスミッション、ABSなどのさまざまな車両制御システムのライブ データを取得します。

[診断] セクションにアクセスするときに使用できるオプションが 2 つあります。

1. 自動スキャン - 車両上の利用可能なすべてのシステムの自動スキャンを開始します。
2. コントロールユニット - テストで使用可能なすべてのコントロールユニットの選択メニューを表示します。
車両。

選択が行われ、タブレットが車両との通信を確立すると、対応する機能メニューまたは選択メニューが表示されます。

自動スキャン

オート スキャン機能は、車両内のすべての ECU に対して包括的なスキャンを実行して、障害を特定し、DTCを取得します。

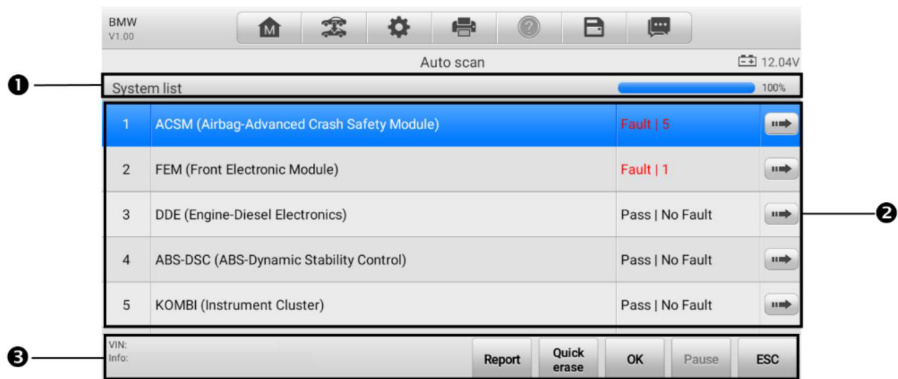


図4-5自動スキャン画面

1. ナビゲーションバー
2. メインセクション
3. 機能ボタン

4.4.1.1ナビゲーションバー

「リスト」タブ — スキャンしたデータをリスト形式で表示します。

進行状況バー — テストの進行状況を示します。

4.4.1.2メインセクション

列 1 — システム番号が表示されます。

列 2 — スキャンされたシステムが表示されます。

列 3 — スキャン結果が表示されます。

障害 | #: 障害は、検出された障害コードが存在することを示します。「#」は検出された障害の数を示します。

パス 障害なし: システムがスキャンプロセスに合格し、障害がないことを示します。が検出されました。

未スキャン: システムがスキャンされていないか、タブレットがスキャンできないことを示します。

このシステムにアクセスしてください。

列 4 — タップすると関連システムに入り、詳細情報が表示されます。

4.4.1.3機能ボタン

以下の表は、機能ボタンの動作の簡単な説明を示しています。

表 4-3 自動スキャンの機能ボタン

名前	説明
報告	診断データをレポートに表示します。
クイック消去	スキャン後、すべての障害情報を消去します。この機能を選択すると、データ損失の可能性を知らせる警告メッセージが表示されます。
ESC	テスト結果を確認します。メインセクションの項目をタップして必要なシステムを選択した後、システム診断を続行します。
一時停止	スキャン処理を一時停止し、タップすると続行ボタンに変わります。
ESC	前の画面に戻るか、自動スキャンを終了します。

コントロールユニット

コントロール ユニットを使用すると、一連の選択を通じてテストに必要な制御システムを手動で見つけることができます。メニュー主導の手順に従って適切な選択を行うと、プログラムが適切な診断機能メニューを案内します。

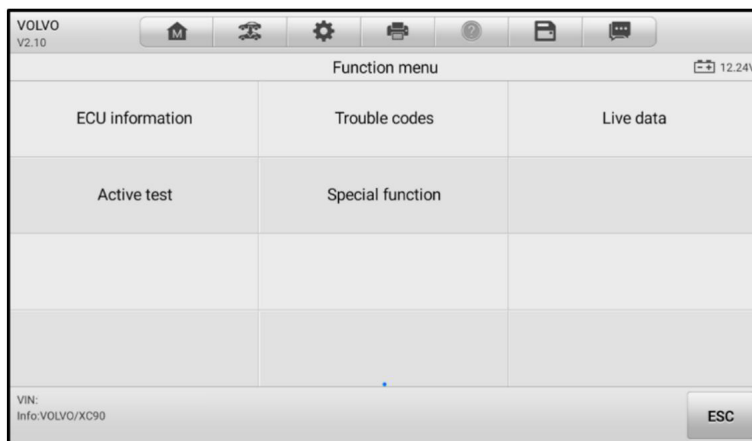


図4-6 機能メニュー画面

利用できる機能は車両によって異なります。機能メニューには次のものが含まれる場合があります。

ECU情報— 詳細なECU情報を表示します。選択すると、情報画面。

トラブル コード— 読み取りコードと消去コードが含まれます。前者は車両制御モジュールから取得した詳細な DTC情報を表示し、後者は ECUから DTCやその他のデータを消去できます。

ライブ データ— 車両の ECUからライブ データとパラメーターを取得して表示します。

アクティブ テスト— 車両固有のサブシステムおよびコンポーネントのテストにアクセスします。

特殊機能— さまざまなコンポーネントの適応を実行します。

診断機能を実行する

1. テスト車両との通信を確立します。
2. メニュー オプションから選択してテスト車両を特定します。
3. 自動スキャンまたはメニュー駆動により、テストに必要なシステムを見つけます。コントロールユニットでの選択。
4. 機能メニューから希望の診断機能を選択します。

4.4.2 ECU情報

この機能は、ユニットのタイプ、バージョン番号、その他の仕様など、テストされたコントロール ユニットの特定の情報を取得して表示します。



図 4-7 ECU情報画面